

■広陵元気号 令和元年10月運行再編後の課題

令和元年10月の運行再編では、町内、特に商業施設へのアクセス確保が必要であると判断し、支線において、町内循環バスとしての機能を強化しました。全ての商業施設に接続できるようになった南部支線は、運行再編後、買い物目的の利用に増加が見られます。

一方で、日中に近鉄高田駅へ接続する路線は中央幹線のみとなり、同駅へのアクセスが不便になったとの声が上がるとともに、南部支線における同駅の利用は、9割弱の大幅減少となりました。この激減は、広陵元気号全体の利用者数・運賃収入の減少にも影響しています。

●近鉄高田駅接続が減少したことへの不満の声

令和2年8月に実施した広陵元気号利用者アンケートの結果によれば…

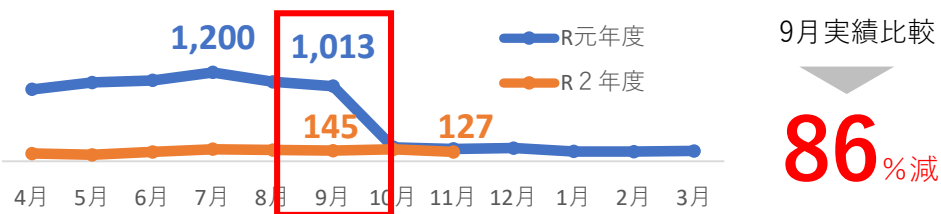
最も利用が多いバス停：近鉄高田駅

近鉄高田駅利用者からの意見：「便数を増やしてほしい」

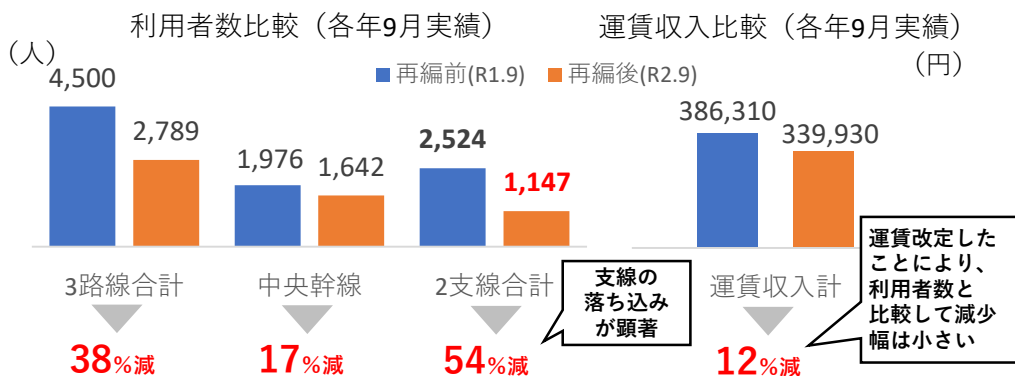
「百済地域からもアクセスしたい」

「運行再編により便数が減って不便になった」

●南部支線における近鉄高田駅利用の激減



●全体の利用者数や運賃収入も減少（詳細、補足資料のとおり）



■令和3年度中の南部支線の運行再編について

利用者ニーズに対応する第一の運行改善として、南部支線の運行再編を検討

■課題を踏まえた南部支線の運行再編方針

現行の課題を踏まえた今回の運行再編では、ニーズの高い時間帯や地域からの近鉄高田駅接続を軸に、以下3つの方針を考えています。運賃が200円である同駅利用の増加は、運賃収入の増加にもつながり、収益性の観点からも有効といえます。

●方針1：百済地域と近鉄高田駅の接続改善

運行再編前の北東部支線（現南部支線）で利用が多かったのは、11時台に百済地域を出発して駅に到着する便、15時台に駅を出発して百済地域に到着する便
→上記のニーズに対応できるよう、運行ルート及びダイヤを調整

●方針2：現在の買い物目的利用者のための便を確保

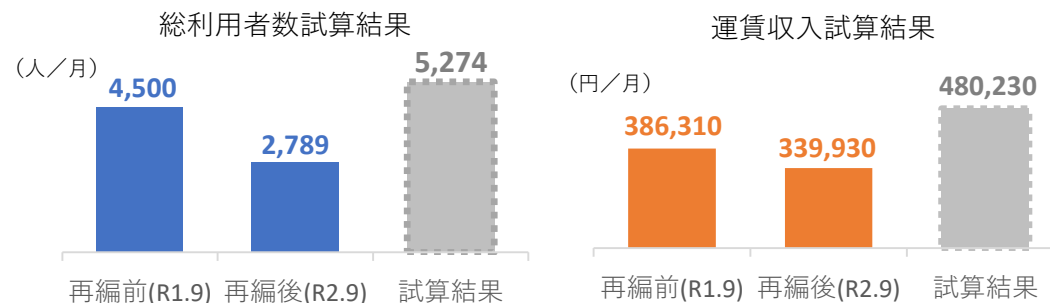
南部支線の買い物利用は、午前中（9時台から11時台）に集中
→現在の利用者の利便を損ねないように、運行ルート及びダイヤを調整

●方針3：ルート・ダイヤ短縮のため、バス停の集約又は移設

百済神主及び百済新子バス停の集約など

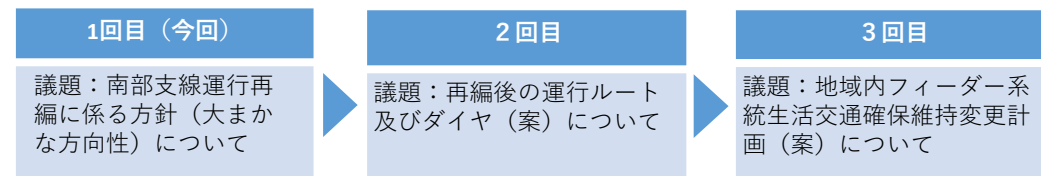
■南部支線の運行再編による効果（試算）

再編前（R1.9）の実績を元に、今回の運行再編による効果を試算したところ、現在と比較し、最大で利用者数が2,485人/月、運賃収入が140,300円/月増加する見込みです。



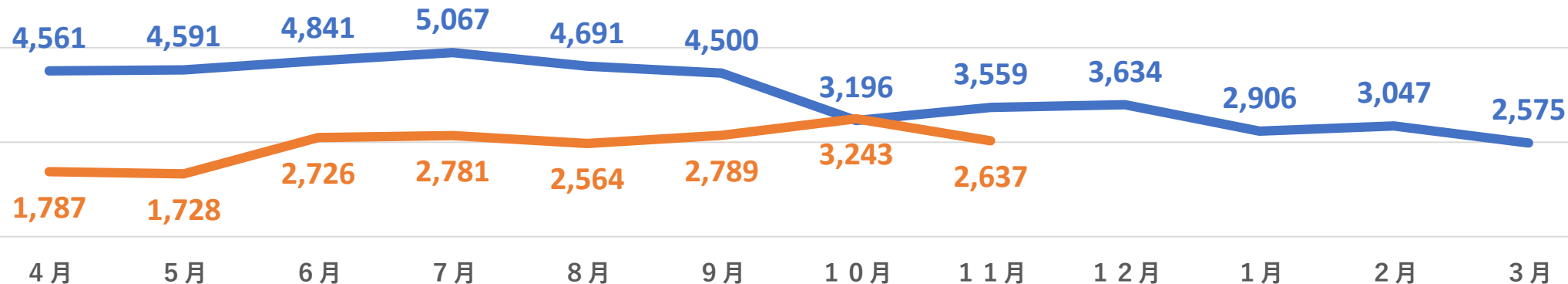
■再編運行実施までの協議回数

運行再編実施までに当協議会における協議を3回予定

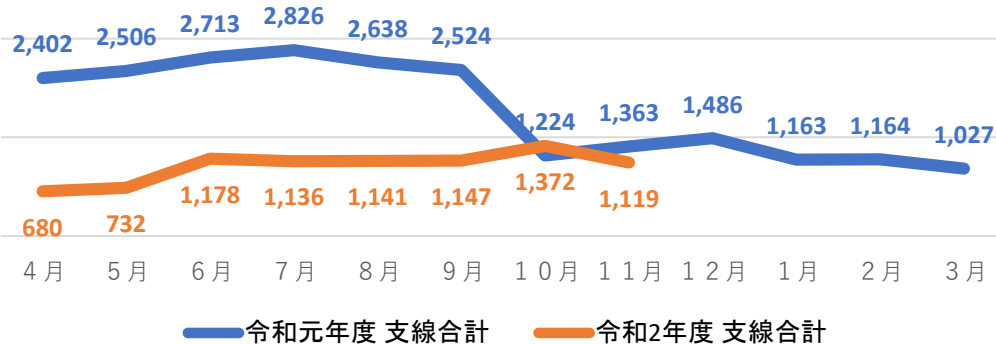


月別利用者 年度別比較表 (3路線合計)

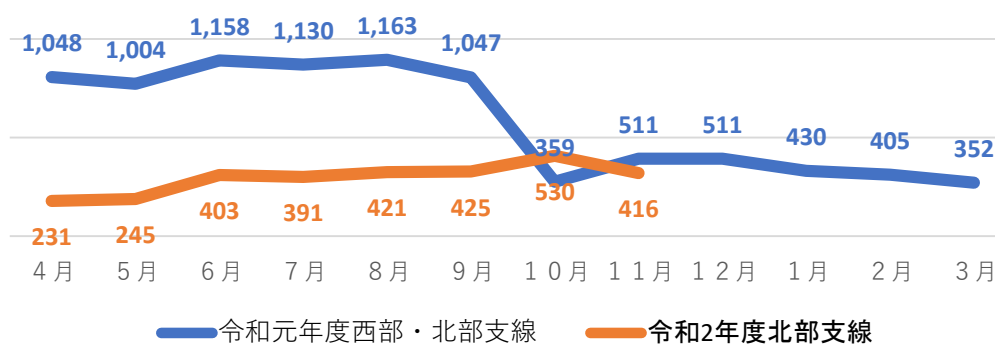
令和元年度合計 令和2年度合計



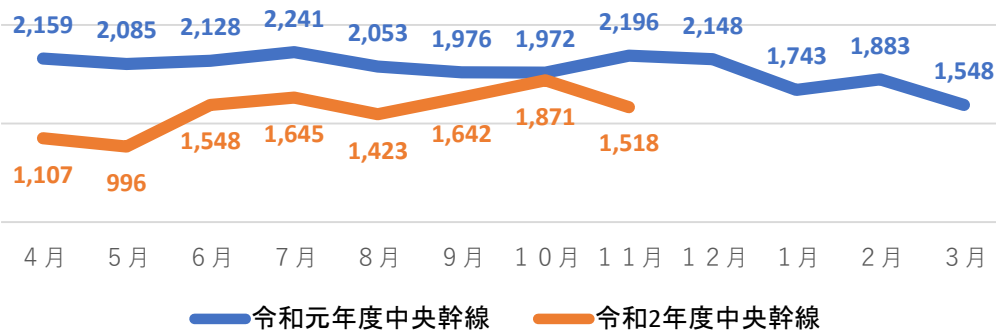
月別利用者 年度別比較表 (2支線合計)



月別利用者 年度別比較表 (西部・北部支線合計)



月別利用者 年度別比較表 (中央幹線合計)



月別利用者 年度別比較表 (北東部・南部支線合計)

